

日米実験で得た基線長変化 (暫定値)

T.KONDO

使用データ

1985年 8月10日実験(WPAC-2)までの鹿島、GSFCでの基線解析データ。ただし、鹿島側解析データは1985年 5月(NPAC-1)実験データまで。

方法

重み付き最小二乗法で基線長変化の最適勾配を求める。

結果

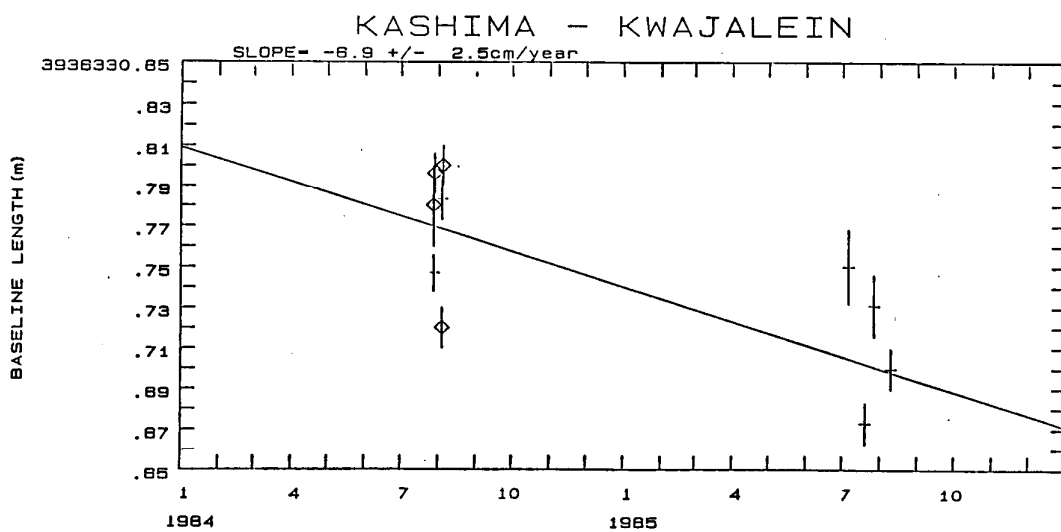
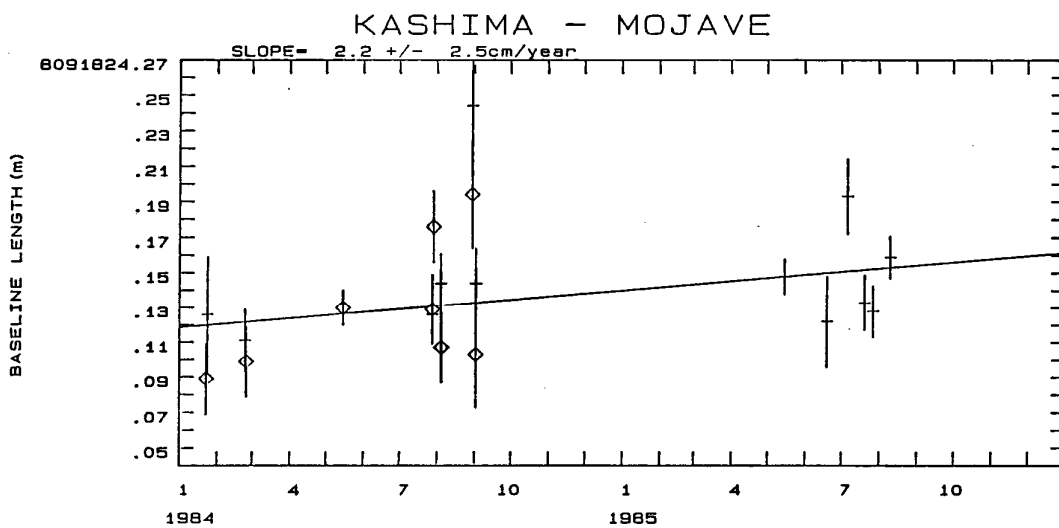
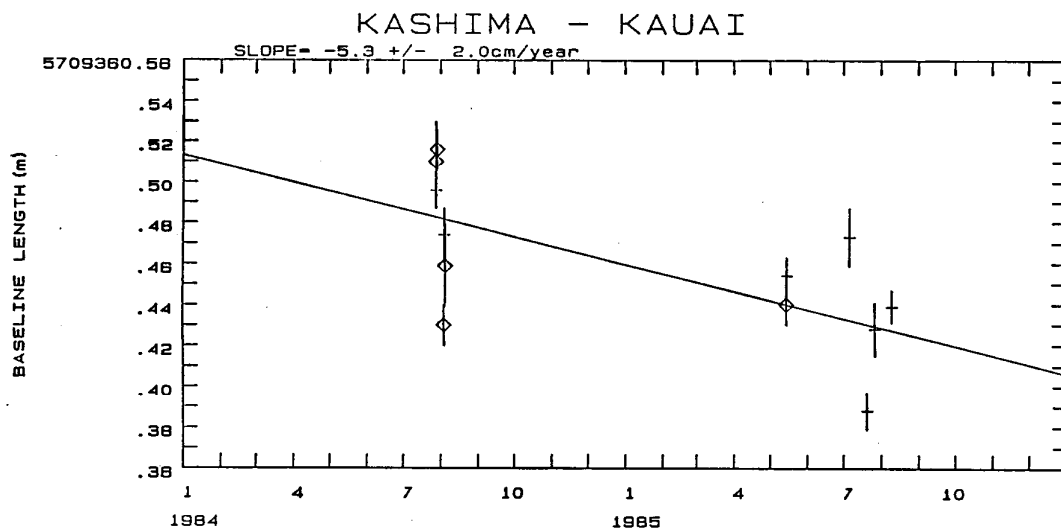
基線長変化率

1986.1.29現在

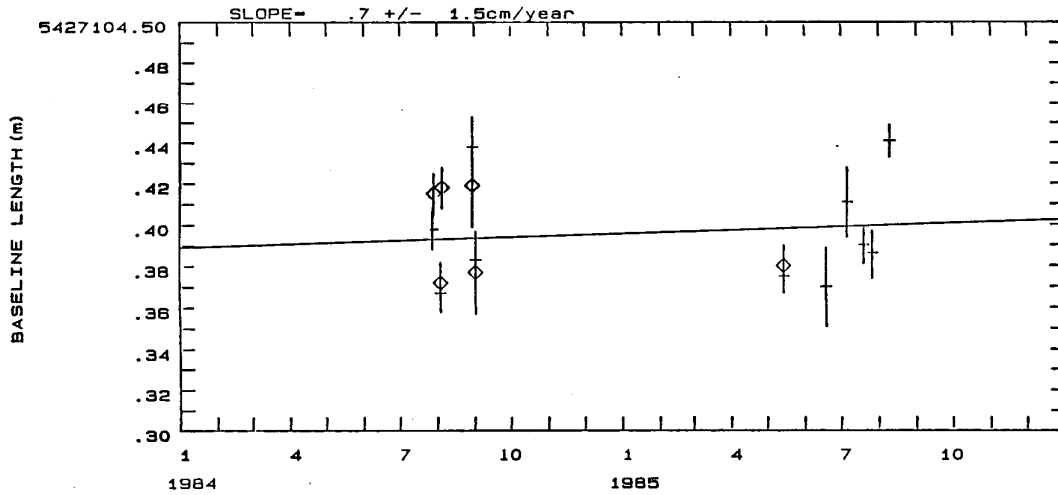
基線名		基線長変化率 (cm/年)		
		観測値	予測値	
			鹿島∈NOAM	鹿島∈EURA
鹿島	- カウアイ	-5.3±2.0	-7.7	-8.9
鹿島	- モハービ	2.2±2.5	0.0	-0.9
鹿島	- クワジェリン	-6.9±2.5	-8.5	-9.4
鹿島	- ギルクリーク	0.7±1.5	0.0	-0.7
カウアイ	- モハービ	5.0±1.1	2.4	2.4
カウアイ	- クワジェリン	-0.8±2.1	0.0	0.0
カウアイ	- ギルクリーク	-2.4±1.2	-5.0	-5.0
モハービ	- クワジェリン	1.5±5.8	2.5	2.5
モハービ	- ギルクリーク	-0.2±0.6	0.0	0.0
クワジェリン	- ギルクリーク	-2.4±4.6	-2.3	-2.3

(使用データ: 1985年 8月10日実験までのGSFC、鹿島解析データ)

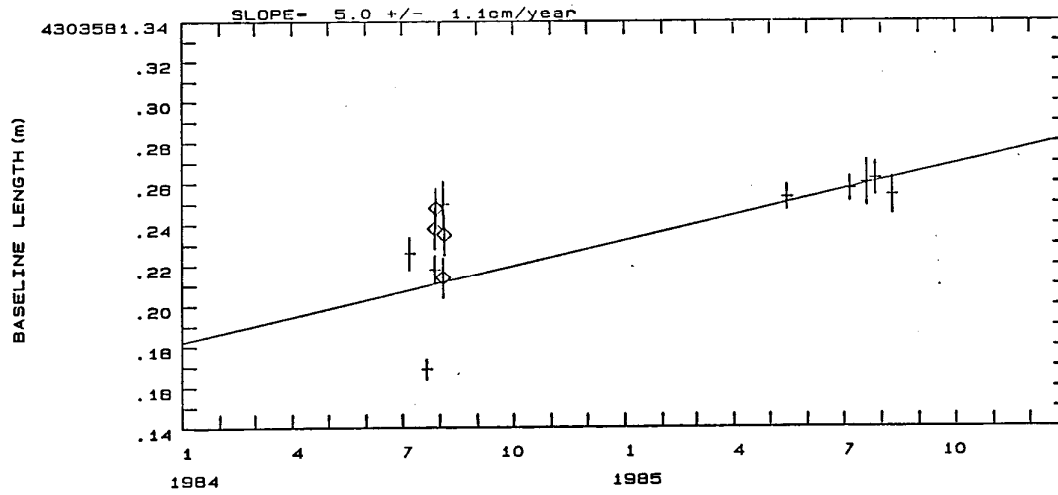
◇ KASHIMA  
+ GSFC



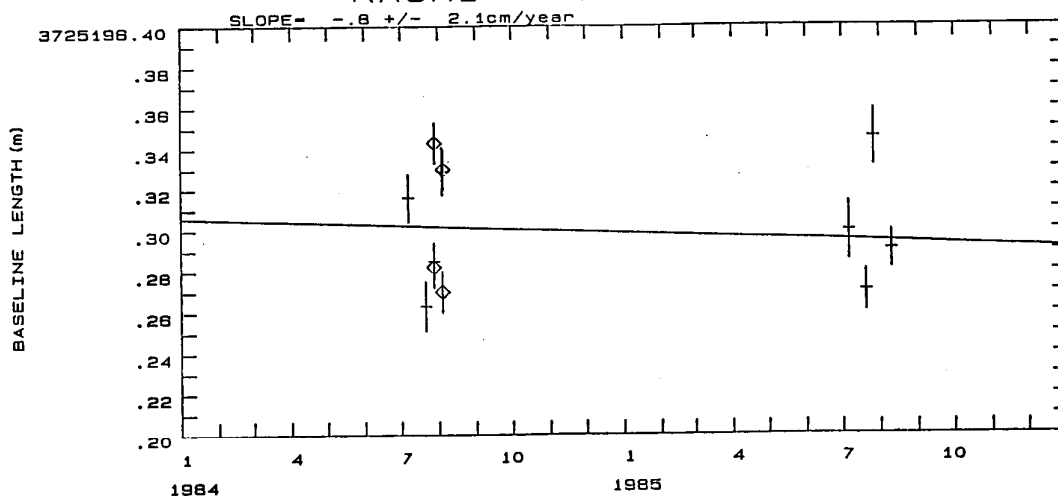
### KASHIMA - GILCREEK



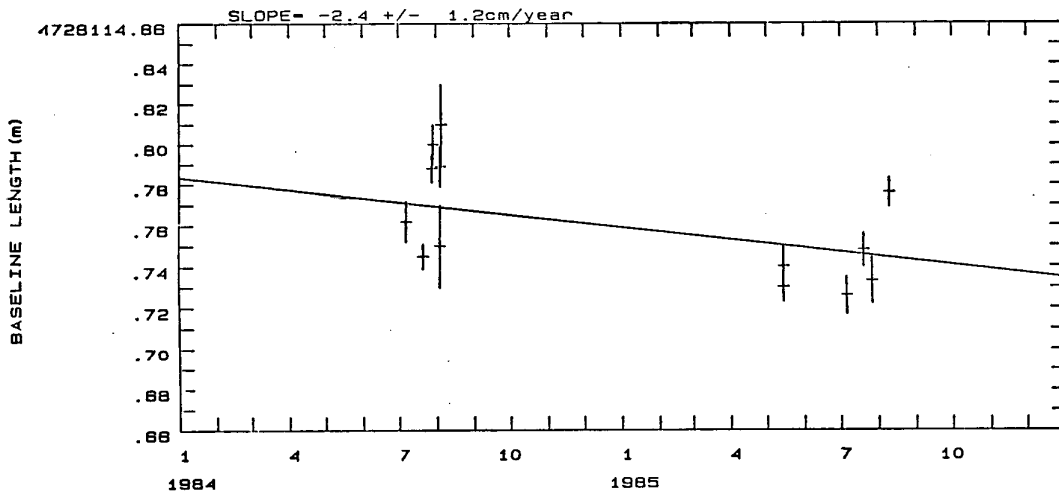
### MOJAVE - KAUAI



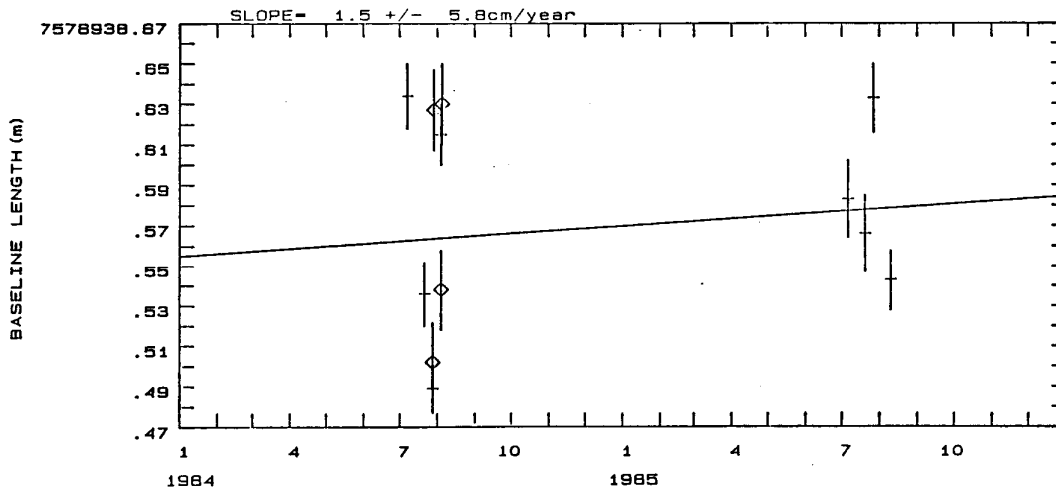
### KAUAI - KWAJALEIN



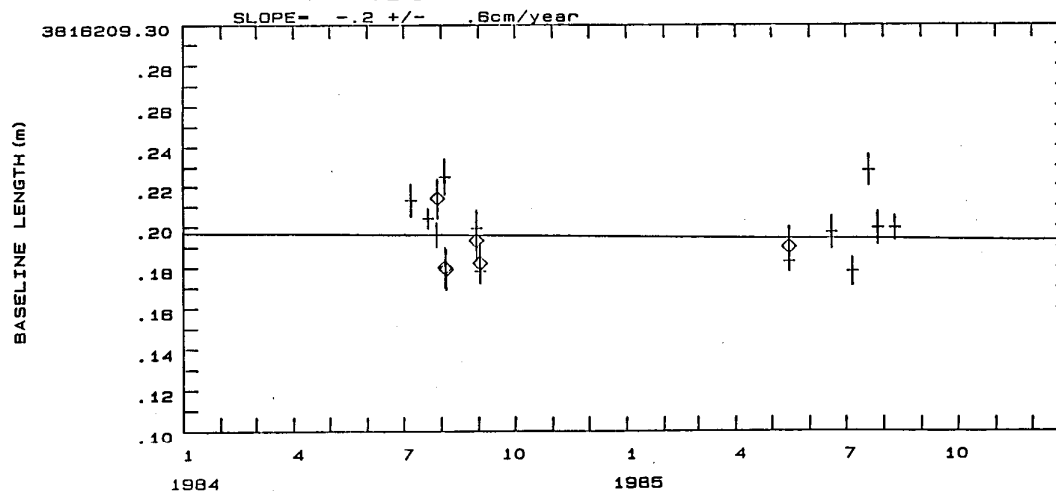
### GILCREEK - KAUAI



### MOJAVE - KWAJALEIN



### MOJAVE - GILCREEK



# GILCREEK - KWAJALEIN

